

日本産業衛生学会  
**近畿地方会ニュース**

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)  
 〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
 奈良県立医科大学地域健康医学教室内  
 専用TEL・FAX.0744-22-1801  
 発行責任者・車谷典男(地方会会長)  
<http://jsohkink.umin.jp>

## 新年のご挨拶

近畿地方会会長 車谷 典男



新年あけましておめでとうございます。会員皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げます。

さて、紙面を与えていただいた機会に、昨年後半の地方会活動を振り返ってみたいと思います。

地方会にとって昨年の最大の行事であった第52回近畿産業衛生学会は、昨年11月17日(土)に、森岡郁晴学会長の見事な采配で、和歌山医大保健看護学部にて盛会裏に開催されました。一般演題は29題を数え、3会場に分かれた分科会の参加者も多く、討論も活発で、さらに詳細は本ニュースで紹介されていますが午後の特別プログラムのテーマも時宜を得たもので、実に充実した学会でした。懇親会を含めて森岡学会長の明朗闊達なお人柄がよくて学会であったことは、皆さんも感じられたことと思います。地方会を代表して厚く感謝の意を表します。昨年、新設した優秀演題賞には富岡公子氏(研究分野)と西井幸位氏(実践分野)のお二人が選ばれました。今年からは副賞(図書カード)も贈呈されることになりました。今後も長く質の高い賞として定着していくことを願っています。また今回に限って森岡学会から第52回近畿地方会若手奨励賞が竹内靖人氏に贈られました。

地方会にとってもう一つ重要な行事として、2年に一度の役員選挙がありました。本ニュースで地方会長、地方会監事、代議員、理事(正確には本学会総会で承認されるまでは理事候補者)の選挙結果が掲載されているはずですが、各々の任期が微妙に違っていて少しややこしいのですが、代議員が2012年11月1日から2014年10月31日、地方会長と地方会監事は2013年3月1日から2015年2月末日(会計年度に一致させている)、そして理事は2013年の全国総会から2015年の全国総会までとなっています。近畿地方会の運営組織である幹事会の幹事選出の手順は、①新会長が新副会長を指名する(地方会規定)、②新会長と新副会長と新理事とが協議して、地域・職種・学会活動歴に基づき、③新代議

員の中から20名程度を選考することになっています。女性、若手も考慮条件です。

話題は変わりますが、本地方会のホームページが大幅に充実されたことをご存知でしょうか。広報担当幹事の皆様方的確な判断で、委託業者を新たに選びなおし再リニューアルした成果です。更新スピードが格段に速くなり、またコンテンツも豊富になり、本来のホームページの役割を担いつつあります。ぜひ訪れてみてください。そして、大いに活用していただきたいと思います。

今年は、5月に愛媛で全国学会があります。その総会で新しい理事長が選出されます。新しい定款が今年の3月1日施行される予定で、その新定款に従えば、理事の互選(従来は全国の代議員が投票権を持っていました)で新理事長が選出されることになっています。

地方会の重要な行事としては、6月に地方会総会と特別プログラム、そして11月2日(土)には第53回近畿産業衛生学会が開催されます。この第53回学会は中山健夫京都大学教授を学会長に、京都大学医学部校内の紫蘭会館で開催されることになっています。昨年の和歌山と同様に、会員全員で活気のある学会にしていこうではありませんか。

産業保健には多くの専門職がかかわっています。専門職間の有機的な連携と切磋琢磨が産業保健を学問としても実践学としても進歩させます。今年も地方会活動にご尽力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



## 第52回近畿産業衛生学会を開催して

学会長 森岡 郁晴  
(和歌山県立医科大学保健看護学部 教授)



第52回近畿産業衛生学会を、平成24年11月17日(土)に、和歌山県立医科大学保健看護学部で開催いたしました。当日は雨模様でしたが、135名の方々のご参加を賜り、本当に良かったと思います。

午前中に一般演題29題の発表がありました。内容は、物理的因子の健康影響、生活習慣病、健康づくり、特定保健指導、化学物質の分析方法など、いずれも貴重な研究成果の発表であり、3会場とも熱心な議論がなされました。一般演題の中から、近畿産業衛生学会優秀演題賞が2題、第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞が1題決まりました。受賞された方々の研究がますます発展することを祈念します。

昼食時に行われる幹事会の時間も会員の有効な時間となるように昼食セミナーを設け、和歌山県労働安全衛生コンサルタント会の初山昌平先生に「ほんとは怖い歯周病!~糖尿病等との関連について~」ご講演をいただきました。紀州の食材を使ったお弁当を食べながらの歯周病の講演で、歯科保健への関心が高まったことと思います。

午後のプログラムは、近畿産業衛生学会優秀演題賞と第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞の表彰式から始まりました。その後、地方会長の車谷典男先生のご挨拶、学会長の挨拶の後に、次期学会長の中山健夫先生からご挨拶がありました。

続くシンポジウムは、「東日本大震災から考える産業保健における健康危機管理」を主題とし、基調講演では、岩手医科大学の坂田清美教授に、「東日本大震災被災者健診からみた健康課題」についてご発表いただきました。東日本大震災の被災地における貴重な資料のご紹介がありました。続いて、大阪ガス健康開発センターの豊川彰博先生からは、「災害復旧作業における健康管理(東日本大震災を例に)」について、神戸製鋼所健康保険組合の河合篤子先生からは、「阪神大震災での産業保健活動を通して」の経験について、新日鐵住金君津製鐵所の宮本俊明先生からは、「同一企業内で被災した他事業場への産業保健支援活動」についてお話をいただきました。多くの活動や体験、教訓などのご紹介がありました。

また、「洪水被害から考える産業保健」と題した特

別報告として、タイ王国マヒドン大学のオラワン・ゲオブンチュウ先生とタイ王国プラバ大学のチャナダ・ナブカソン先生からは、「タイで洪水被害の視点から労働衛生について考える」、タイ王国マヒドン大学のチャルンチュディ・チャナサンハ先生からは、「タイの洪水被害の回復管理:マヒドン大学のケーススタディ」についてご紹介をいただきました。洪水被害の直後からその後の対策の様子のお話がありました。

シンポジストのご講演と特別報告の後、フロアの参加者からの意見を交えて、活発な総合討論が行われました。健康危機管理には対策も大切ですが、私達は普段からそれぞれの技量をしっかり高めておくことも肝心なようです。

シンポジウムの後は会場を移し、懇親会が43名のご参加を得て盛大に行われました。来賓等のご挨拶、乾杯、しばらく歓談の後、マグロの解体ショーがありました。感動と料理、そして会話を楽しんでいただけたと思います。

本年次学会では、近畿産業衛生学会のホームページを活用して、情報発信だけでなく、参加、お弁当、懇親会の申込をお願いいたしました。初めてのことで戸惑われた会員の方もいらっしゃったかもしれません。ご協力ありがとうございました。

最後になりましたが、多くの先生方に企画運営委員として力強いご支援をいただきました。ホームページについて関係者のご助言をいただきました。また、座長の先生方のお蔭で順調に進行いたしました。一般演題の座長の先生方、学術担当理事の廣部一彦先生には、近畿産業衛生学会優秀演題賞と第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞の選考委員をご担当いただきました。当日の運営に際しても、多くの方々のご協力を得て、学会を進めることができました。学会は、実に多くの熱意に支えられて成功裡に終わりました。本当にありがとうございました。

**第52回近畿産業衛生学会**

日時:平成24年11月17日(土)10:00~16:30

会場:和歌山県立医科大学保健看護学部



## 第52回近畿産業衛生学会の報告

第52回近畿産業衛生学会  
昼食セミナーを拝聴して

(財)近畿健康管理センター  
滋賀事業部保健技術グループ  
桂田 ちづる



第52回近畿産業衛生学会昼食セミナーで、初山昌平先生による「本当は怖い！歯周病！～糖尿病との関連について～」を聴講しました。日本人は世界で一番歯を磨く人種だそうですが、先進国で歯周病が減少しているのに対し、日本は増加していると聞きとても驚きました。歯周病は世界で一番多い病気で、進行すれば歯を失うそうです。歯磨きは虫歯を予防するためと思いがちですが、子供のころより自分でプラークコントロールを行い、定期的に（半年に1度くらい）歯科でプロフェッショナルケアを行うことが大事だという事がよくわかりました。

歯周病の最大の危険因子は喫煙だそうです。喫煙による血管収縮で自覚症状の出血がなくなることにより発見が遅れ、歯周病が放置され、歯周病菌が血管内に入る事より心疾患、認知症、低体重児出産、早産、誤嚥性肺炎、糖尿病など全身に影響を及ぼすことがわかりました。特に糖尿病との関係は、「6番目の合併症」と言われており、糖尿病に罹っている人は、そうでない人に比べ歯周病になりやすく、より進行しやすいそうです。血糖コントロールが悪いと、なお進行するリスクが高まるそうです。糖尿病に罹っていて進行した歯周病のある人は、歯周病の治療をしないで放置すると血糖コントロールも悪くなり、歯周病の治療をすることにより血糖コントロールも改善していくという報告があり、歯周病と糖尿病との相関関係が重視されてきているそうです。

次に、歯科の災害時における活動の報告についてお聞きしました。災害時の歯科の役割は、ご遺体の身元確認作業、義歯を作るなどの歯科医療、避難所などでの口腔ケアがあるそうです。災害が起こったとき、支援物資として届く物の中に歯ブラシはないという事を聞き、驚きました。

歯科へ通院できないと「社会的死の始まり」、医療機関へ行けなくなると「身体の死の始まり」と言われるそうです。歯科は生きる力の根幹を支える生活の医療であり、どんな時も口腔機能が生涯にわたり維持できるように支援していくとおっしゃっていました。

本日の講演を聞き、歯磨きの重要さや虫歯が無くて定期的にも定期的に歯科に行くことが健康で生きていく為に必要という事を学びました。

## 第52回近畿産業衛生学会の報告

「第52回近畿産業衛生学会  
特別報告」を拝聴して

(一財)和歌山健康センター  
麦谷 耕一



シンポジウムの“産業保健における健康危機管理”のテーマの流れで、タイ王国マヒドン大学のオラワン・ゲオープンチュウ先生、チャルンチュディ・チャナサンハ先生、ブラバ大学のチャナダ・ナブカソン先生からタイの大洪水の経験談を基に御講演頂きました。

まず、オラワン・ゲオープンチュウ先生からは2011年のタイの大洪水の被害の概要と労働衛生の懸念についてお話されました。タイ北部から南部の広範囲で洪水が発生し、2か月間にも及び、500万人以上の人々が直接被害を受け、家を失い、約600人が死亡されました。農業・産業界に大きなダメージがおり、経済損失は1兆4000億バーツ（1バーツ＝約2.6円）と推定されており、工場が閉鎖し、70万人の失業者が生まれました。労働衛生の視点では、作業者の安全、職場の安全、作業環境の安全、地域社会の安全の4つの安全を確保すること、イベント前には緊急トレーニング、イベント中は緊急アクションの実行、イベント後は怪我の治療、環境整備を実施し、職場復帰前に作業環境アセスメントを行い、健康リスクを評価すること重要であるとお話でした。具体的な活動としては、洪水救援オペレーションセンターを設立し、情報の収集、関係部署とのコーディネーション、被災者への支援計画を立て地域の清掃や傷病者の治療やお金の支給など実施されました。

チャナダ・ナブカソン先生からはメンタルヘルスケアの取り組みを御紹介頂きました。ブラバ大学の職員、OB、学生がグループに分かれてボランティアとしてインタビューを通じて被災者の心の健康状態を評価し、危機的な人に対してカウンセリング、集団治療によるストレスマネジメント、リラクゼーション法の実技を実施されました。上手くコーピングができない人に対して病院の受診を勧め、退院後自宅訪問しカウンセリングまでのフォローをされました。

チャルンチュディ・チャナサンハ先生からはマヒドン大学公衆衛生学部のメインキャンパスは防波堤を設置していたため洪水の被害はなく、洪水被害支援センターを設立し、食事や水などの物品の支援活動の様子を写真で紹介頂きました。

タイの大洪水被害について公衆衛生的な視点での活動をお聞きして感じたことは、第一に衣食住を確保すること。そのためにしっかりと準備しておくことが必要であり、災害が起こった際は、現場を向向き、見て、聞いて何が必要とされているか、自分たちのできることは何かをしっかりとシミュレーションしておくことが大切だと再認識致しました。

## 第52回近畿産業衛生学会の報告

## 基調講演「東日本大震災被災者健診からみた健康課題」を拝聴して

一般財団法人京都工場保健会  
保健指導課

奥田 友子



岩手医科大学の坂田清美先生による基調講演は、岩手県で被災状況が最も深刻な大槌町、陸前高田市、山田町の3市町の住民、18歳以上の約1万人を対象に厚生労働科学特別研究として行われた被災者健診の報告とその課題についてでした。

被災者健診にて明らかになったことは、約4割の住民が睡眠障害や心の元気さ（K6）に問題を抱えており、何れも震災後の住居の移転回数、家庭の経済状況、失業と密接に関連していたと示されました。K6の得点と震災後の住居移動回数との関連では、移動回数が多いほど得点が高くなっており、心の健康に大きく影響を与えていました。また、住民の3割以上が失業し、収入が減少しており、被災者は経済的な困難を抱えながら不安や焦りを募らせて、不十分な住環境の仮設住宅で生活を送られているとのことでした。震災から1年8か月が過ぎ、被災地の報道も少なくなり震災への関心も薄れていましたが、復興にはまだまだ多くの問題がある現状を知る機会となりました。

次に、震災の健康影響では、震災直後に血圧が以前よりも大幅に上昇していた者が多かったが、保健師が医療機関への受診勧奨を行ったことと、被災者の医療費の無料化も手伝って治療者割合が高くなり、血圧が改善したと考えられていました。しかし、医療費の無料化が終了した後の血圧のモニタリングが重要と述べられていました。確かに、保健指導の現場でも経済的理由で受診していない人や治療を中断している人と面談することが多々あり、経済格差が健康にも影響していることを日々、痛感しているので被災地だけではない課題であると思いました。今後も被災者支援が継続される中で、被災者の過剰な依存を生まないように注意しながら、自立に向けての支援をしていかなければならない難しさを考えさせられました。

先日、復興のシンボルであった高田松原の「奇跡の一本松」をモニュメントにするために伐採されましたが、昨年接ぎ木した苗木9本が順調に成長しているそうです。松の成長は遅く植樹するには10年かかるようですが、陸前高田に植樹されるその日を楽しみに待ちたいものです。

## 第52回近畿産業衛生学会の報告

## 第52回近畿産業衛生学会に参加して

JR西日本健康増進センター  
宇都宮 理恵



平成24年11月17日に開催された第52回近畿産業衛生学会では、一般演題の投稿者として、また7名のシンポジストの先生方による「東日本大震災から考える産業保健における危機管理」についてディスカッションを拝聴する有益な機会を頂くことができました。

東日本大震災はその被災範囲や多くの死傷者数より、予測を上回る未曾有の大規模災害となり、現在も復興や日本経済への爪痕を色濃く残しています。災害当時より現地で復興支援に携わられた先生方の経験則は貴重であり、産業保健の立場から災害時の防疫・有害物管理や地域と企業の連携を踏まえた防災対策を計画する必要性を説かれていました。中でも災害の急性期・亜急性期はもとより数か月経過してなお影響を受け苦しむ慢性期の障害疾病への支援対応のあり方、企業労働者の家族を含めた巡回面接支援、被災経験者の対応にあたった職務者のストレス障害への理解などは奥が深く、産業保健従事者の役割の大きさを再認識いたしました。タイからのシンポジストの先生方からも昨年の大規模洪水の経験から、緊急時に対応できる応急処置の演習や洪水防衛のための構造改革と評価が必要であると説かれており、日頃からの防災対策訓練や衛生教育の強化、災害に備えた地域・企業間のネットワークの形成など多くの課題を学ぶことができました。今回、学会に参加させて頂き、一般演題をはじめシンポジウム等から多数の研究事例の報告を聴講し、産業保健従事者の一人として自身の身に当てはめてみることで欠点に気づき、それを補う新たな視点を得ることができました。有益な機会であったと感じ、参加できたことを感謝しております。ありがとうございました。



## 優秀演題賞を受賞して

奈良県立医科大学  
地域健康医学教室

富岡 公子



この度、優秀演題賞を受賞致しました。本受賞は本学会の諸先生方をはじめ関係各位のご指導・ご助言によって導いて頂いたものと、心より感謝申し上げます。口演発表させて頂きました研究テーマは、原 一郎先生が手掛けられ、「ベンジジン運動」が起こった和歌山の地での受賞であることから、第52回近畿産業衛生学会の優秀演題賞として相応しいというお言葉を頂戴致しました。大変嬉しく、またこの研究を何としても成功させなければと身の引きしめる想いです。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 優秀演題賞を受賞して

三菱樹脂(株)長浜工場

西川 幸位



この度は近畿地方会優秀演題賞をいただき、ありがとうございます。職場対抗ウォーキングは、私が入社して初めて担当した大切な活動です。より多くの従業員に興味を持って取り組んでもらえるよう、リーダー会やアンケートで声を聞くなどの工夫をしながら進めてきました。この研究で、活動を統計学的に分析することの大切さを実感しました。和歌山医大 森岡郁晴教授を始めご指導いただきました皆様に深く感謝しております。今回経験したことを心の糧に、これからの保健師活動に励んでいきたいと思っております。

## 第52回近畿産業衛生学会 若手奨励賞を受賞して

大阪労働衛生総合センター  
竹内 靖人



この度は、第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞を頂き、大変光栄に思います。今回の受賞にあたって、今までご指導頂いた河合俊夫先生、圓藤吟史先生、圓藤陽子先生をはじめ、会員の先生方に深く感謝致します。私は、主に産業衛生分野における曝露モニタリング技術の開発を行っています。受賞対象となった発表は、GC-MSを用いた形態別尿中ヒ素化合物の分析法についてで、この方法は生物学的モニタリングに有益なものであると考えています。この受賞を励みに、今後も産業衛生技術の開発に努めていきたいと思っております。

## 第22回産業医産業看護 全国協議会に参加して

旭化成(株)守山支社

産業医 尾土井 悠



平素よりお世話になっております。旭化成(株)守山支社産業医の尾土井 悠です。平成24年11月22日～24日の日程で、第22回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会が東京で開催されました。今学会は“産業保健と危機管理～どう備え、どう動くか～”をテーマに東日本大震災から1年半が経過した現時点での振り返りと危機時における産業保健活動、法整備化目前であるストレスチェックへの対応検討、社会情勢が変化する中での海外勤務者の健康管理に関する検討などの演題を中心に活発な議論が交わされました。

特に興味深かった演題は、メインシンポジウムにおける、和田先生（北里大学）の演題でした。内容としては、危機時には多くの媒体を通じて様々な「危険情報」が発信されます。その中には、有用な情報もありますが、多くの情報によって混乱が生じることも少なくありません。そうした中で、精度の高い「安心情報」を発信することは、大変有用であり、かつ産業保健職の役目のひとつでもあります。しかし、その情報の発信は、これまでの研究や経験に頼るところも多く、非常に困難を極めます。そのため、危機時には学会全体で、英知の集約をすべきであるというご提案があり、それに対する、会場全体の一体感を感じました。

メンタルヘルスに関しては、椎葉先生（厚生労働省）から、現在検討されているストレスチェック法案と絡めて、法案ができるまでの過程のご講演を拝聴し、学問的領域から、海外の知見を含めて川上先生（東京大学）、実際にストレスチェックを実施している事業場から増澤先生（NTT東日本）、労働衛生機関から森口先生（京都工場保健会）と多方面からの見解を頂き、今後のストレスチェックに関する見識を深める事が出来ました。

多くのシンポジウムに一貫して感じたものは、震災等の危機に関わらず、産業保健における問題と対峙する際、平時における活動になんらかのヒントがあり、そうしたヒントを常に使える情報として有しておくことの重要性でした。今回の学会で感じた、この思いを胸に明日からの産業保健活動に邁進して行ければと思います。以上で学会報告と代えさせていただきます。

# 平成24年度日本産業衛生学会役員選挙結果報告

近畿地方会選挙管理委員会 委員長 西尾 久英

今選挙での近畿地方会の選挙人は1063名でした。これに基づき割り当てられた役員数は代議員119名で、地方会としては代議員および地方会会長1名、地方会監事2名の選挙を行いました。今回の選挙より、代議員については会員の互選とし、地方会会長および地方会監事については推薦および立候補により候補者を募りました。その結果、地方会長候補1名、地方会監事候補3名となったため、地方会会長は無投票で当選とし、代議員と地方会監事に関して投票による選挙を実施しました。

投票総数は465名でしたが、うち10名については規約に従い無効と判断され、有効投票数は455名でした。開票作業は平成24年10月13日に行い、新規役員を選出しました。尚、今選挙では当選者の中から辞退者が無かったので、繰り上げ当選は発生していません。

理事候補4名の選出は代議員の互選により行い、112名より投票がありました。うち1名は規定に従い無効と判断され、有効投票者数は111名でした。開票作業は平成24年12月1日に行いました。なお、今回選出した理事候補は、来年度全国学会時に開催される総会の承認を経て理事となります。

## ■近畿地方会 会長

(敬称略 定員1名)

氏名	得票数
車谷 典男	無投票当選

## ■近畿地方会選出 理事候補

(敬称略 定員4名)

氏名	得票数
車谷 典男	98
圓藤 吟史	50
山田 誠二	48
久保田 昌詞	41
大脇 多美代	36(次点)

※理事候補は全国総会の承認を経て決定します

## ■近畿地方会 幹事

(敬称略 定員2名)

氏名	得票数
中島 美繪子	283
宮上 浩史	257
河野 公一	235(次点)

## ■近畿地方会 代議員

(敬称略 定員119名)

氏名	得票数
圓藤 吟史	84
有西 幸子	79
伊藤 正人	79
岡田 邦夫	78
佐藤 恭子	73
田中 紀子	73
森口 次郎	73
河津 雄一郎	71
村田 理絵	71
山田 誠二	69
圓藤 陽子	69
鮫島 真理子	66

## 近畿地方会 代議員 (続き)

氏名	得票数
井上 幸紀	63
森岡 郁晴	60
木村 隆	58
林 朝茂	58
出雲谷 恭子	57
前久保 邦昭	57
中西 一郎	56
上原 新一郎	56
清田 郁子	55
津田 恵理	55
仲岡 裕右	55
堀口 俊一	55
櫻木 園子	55
久保 とし子	54
河合 俊夫	53
辻本 士郎	53
福田 昌宏	53
寺本 敬子	52
榊屋 義雄	52
大脇 多美代	51
豊川 彰博	50
萩原 聡	50
埜田 和史	49
津田 由紀	48
廣部 一彦	48
夏目 誠	48
宮下 和久	48
日野 孝	47
細谷 詩子	47
岡田 章	46
(クボタ 枚方製造所)	
久保田 昌詞	46
谷口 有紀	46
中嶋 千晶	46
伊木 雅之	45
柳本 政浩	45
丸山 総一郎	45

氏名	得票数
岡田 章	44
(医療法人 起生会)	
阪上 皖庸	44
柳本 裕子	44
富永 なおみ	43
濱田 千雅	43
富岡 公子	43
田中 茂美	43
小林 麻美	42
藤森 次勝	42
山田 義夫	42
西内 恭子	41
日高 秀樹	41
松澤 佑次	41
寺澤 嘉之	40
大橋 誠	40
酒井 英雄	40
長谷川 健	40
益江 毅	40
車谷 典男	40
垣本 洋希	39
北村 栄作	39
藤岡 滋典	39
北原 照代	38
鈴木 純子	38
田内 潤	38
守山 敏樹	38
竹下 達也	38
猪阪 善隆	37
磯島 康史	37
鍵谷 俊文	37
後藤 浩一	37
瀧本 忠司	37
林 佐栄子	37
平田 真以子	37
金山 周次	36
清原 達也	36
東堂 龍平	36

氏名	得票数
朴 永大	36
三嶋 正芳	36
八木田 あけみ	36
安尾 詠穂	36
吉田 途男	36
井殿 雅子	36
竈門 敬二	36
高嶋 哲也	35
高橋 良夫	35
辰巳 佳次	35
田中 健一	35
田邊 淳	35
伏見 尚子	35
前田 宏明	35
小林 伸行	35
梶山 泰男	34
竹村 芳	34
奥野 優	34
中島 美繪子	33
長谷川 恭一	33
本田 美佐子	33
島 正之	33
竹林 真智子	32
土手 友太郎	32
中井 栄	32
原田 昌子	32
宮上 浩史	32
植原 秀和	32
長澤 孝子	31
園山 明	31
立間 治人	31
並河 啓	30
森下 寿々枝	30
合田 美保子	30
泊 慶明	30(次点)
高山 純一	30(次点)
杉岡 潔子	30(次点)

## 産業看護部会からのお知らせ

### ～魅力ある産業看護部会をめざして～

部会長 鮫島 真理子

9月から新幹事を迎え、20名の幹事体制で産業看護部会活動がスタートしました。本学会の公益法人化にともない、産業看護部会も改革期にあります。産業看護部会本部活動に連動した活動を近畿地方会でも展開していきたいと考えています。本部では、新たな「専門産業看護職教育制度の構築」にむけて検討中ですが、当部会では、タイムリーな情報収集に努め、柔軟にかつ迅速に対応できるよう運営をめざしていきます。次年度事業計画を作成検討しているところですが、これまで取り組んできました研修、研究活動を重点的に進めてまいります。併せて産業看護部会活動を見える形になるよう努力していきます。そのために、研修会開催時やホームページ等で活動を紹介し、理解を深めていただく機会を設けていきたいと考えています。また、多くの方に参加していただいている研修会については、皆様にご協力をいただきました「産業看護活動実態調査」の分析結果をもとに内容を検討してまいります。産業看護職が活躍する場は多様化し、産業看護業務が多岐にわたっていること、看護職は労働者の最も身近な存在で健康支援を行うことができることから、今まで以上に役割に期待が寄せられています部会としては、より高い専門性と実践能力の向上と情報の共有化にむけて、産業看護職の皆様がよりよく活動できるように少しでもお役にたてるような部会活動につながるよう活動してまいります。

そのためにも、一人でも多くの方に産業看護部会会員になっていただき、より積極的な学会活動を目指していければと願っております。これからも、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

## 近畿地方会・産業衛生技術部会の討論会のお知らせ

討論会にはどなたでも参加できます。多くの方の参加をお待ちしています。

近畿地方会産業衛生技術部会 世話役 河合 俊夫

労働安全衛生法施行令および労働安全衛生規則等の一部が改正され、平成25年1月1日から施行されます。改正ではインジウム化合物、エチルベンゼン、コバルト及びその無機化合物の健康障害防止措置の拡充が行われました。今回の討論会ではエチルベンゼンの取り扱い実態、インジウム化合物については曝露と健康影響についてとその予防について討論したいと思います。

主 催：日本産業衛生学会・近畿地方会・産業衛生技術部会

日 時：平成25年2月9日(土曜) 13時30分～16時30分

場 所：貸会議室 ユーズ・ツウ(大阪ヒルトンホテル、四ツ橋筋側)西梅田駅4-B出口すぐ 電話 06-6345-1326

講演名

- 1) エチルベンゼンの取り扱い実態と改正法について  
中央労働災害防止協会・大阪労働衛生総合センター 山室 堅治
  - 2) インジウム化合物の健康障害とその取り扱いについて  
慶應義塾大学・医学部 中野 真規子
  - 3) 曝露予防対策としての保護具の使用について  
十文字学園女子大学大学院・人間生活学研究科 田中 茂
- 座長：(独)労働者健康福祉機構・関西労災病院 圓藤 陽子



## 第13回近畿臨床産業医学フォーラムのお知らせ

日 時：平成25年3月22日(金) 18:00～

場 所：ホテルモントレ大阪(予定)

テーマ：「増加しつつあるHIV感染症にどう対応するのか

～職域で見過ごされてきたHIV感染症対策を考える～」

※詳細は後日地方会ホームページに掲載いたします。

シリーズ

私たちの職場 (28)

自己紹介

## 一般財団法人京都工場保健会

産業保健推進部 医療次長 櫻木 園子

## 京都工場保健会の歴史

一般財団法人京都工場保健会(当会)は、1940年11社の6500名の従業員を対象に結核の早期発見と体躯の向上・健康保持のための施策の共同化を目的とする会員制の「京都保健施設会」として発足しました。翌年診療所を開設、民間初のレントゲン車を配備し年2回の巡回結核検診などを始めました。

1952年には職業病などの産業医学に関する調査研究を目的とした公益法人となりました。1966年には全国初の労働衛生センターを建て、1976年には作業環境測定機関として登録しました。

その後経済状況による変動はあるものの会員数・労働者数とも増加し、2011年度は会員企業数533社、勤労者数101,297人となりました。2012年4月1日より一般財団法人となり、労働者の健康管理を担ってきた経験をもとに、家族を含めさらに多くの人々の健康に貢献することを目指しています。

## 事業内容

## 1. 健康診断事業

巡回と京都市、宇治市、神戸市にある施設での健康診断、人間ドックを行っています。2011年は、10万人を超える会員企業の労働者の健康診断に加え、家族(主に配偶者)健康診断、市民健康診査や学校健康診断も行い、全体で年間延べ50万人に達しています。特に家族健康診断は「主婦健診」として健康保険組合と協力して早期から取り組んできました。

## 2. 診療事業

京都市内の診療所で精密検査・再検査と治療を行っています。十分な疾病管理のため専門外来も設けています。健康診断後の精密検査などでは健康診断の結果をもとにスムーズに診療が行えるよう工夫しています。

## 3. 作業環境測定事業

法定の作業環境測定・分析に加え、労働衛生コンサルタントによる指導も行っています。コンサルタントとしての視点を持つことで、事業場に適切なアドバイスを含む報告書を作成しています。インジウムや鉛、尿中馬尿酸などは外部機関からも分析を受託しています。

## 4. 保健指導事業

保健師、管理栄養士、運動トレーナーによる保健指導を行っています。事業場産業看護職としての業務以外に、特定保健指導にも力を入れています。また、労働者やその家族を対象とした健康セミナーなどを実施しています。

## 5. メンタルヘルス事業

企業におけるメンタルヘルス対応をサポートするため、臨床心理士などが定期的に事業場を訪問してカウンセリングを行っています。会社が個人を特定せずにカウンセリングルームを利用する契約も可能です。管理監督者教育、社員教育、メンタルヘルス調査のほか、必要に応じて同じ事業場を担当する産業医や保健師とも連携しています。

## 6. 嘱託産業医事業(後述)

## 7. 公益活動

研究や機関誌の発行、衛生管理者を対象とする研修などの啓発活動を行っています。1952年に公益法人化したように、当会の精神的支柱となる分野です。職員の学会・論文発表や、内部での研究発表を奨励しています。

## 産業保健推進部の業務

私が所属する産業保健推進室には産業医を専門とする7名の医師(産業衛生学会指導医2名)がおり、ほとんど毎日事業場産業医として出務しています。業種は製造業、情報通信業、卸売・小売業、運送業など多岐にわたっています。中小企業が中心ですが、大企業の1000人未満の事業場も担当しています。毎月産業医の勉強会を開催し、相談や情報交換をしてスキルアップに取り組んでいます。

保健師と産業医が別々に訪問する事業場では交換日記のような連絡ノートを活用したり、面談の引継ぎをしたりするなど情報共有の工夫をしています。作業環境測定士のレポートで職場巡視の際に把握できなかった問題を発見したり、産業医の意見を補強してもらったりすることで総合的労働衛生機関ならではの環境改善が進められると感じています。メンタルヘルスサービスを利用している事業場では、本人の同意のもとカウンセラーから従業員について情報提供を受け、早期に対応することができました。カウンセラーが産業医の業務内容をよく理解してくれており、時期を逸することなく連絡を取ってもらえます。このように他職種との連携が取れることは当会の特徴であると考えています。

特殊健康診断を含む健康診断の判定基準作成や判定業務も行っています。ほとんど自動化されていますが、診察所見などで判断が必要なものに対応しています。昔ながらの職業病に触れる機会は少なく、判定業務を通じてあらためて勉強しています。

## 終わりに

労働衛生サービス機関として、事業場の様々なニーズに応えられるよう研鑽していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。



◀ 京都工場保健会本部



▲ 産業医勉強会の様子



◀ 民間初のレントゲン車

## 会員の声



### プレゼンティーズムとヘルシーカンパニー

京都大学大学院医学研究科  
社会健康医学系専攻健康情報学分野  
中山 健夫

「プレゼンティーズム (Presenteeism)」は、何らかの健康問題による仕事を行う能力、生産性の低下した状態を意味する言葉です。もとは1955年に米国のAurenが「健康問題で仕事を休む」アブセンティーズム (Absenteeism) の対義語として作ったと言われます。アブセンティーズムは客観的に把握できますが、プレゼンティーズムは「出勤しているのに力を発揮できていない」ことですから、本人の主観的な評価が中心になります。

プレゼンティーズムは、雇う方にも働く方にも望ましい状態ではありません。実際の職場では、「休みたい」「休んだ方が良い」と感じながらも、身体に鞭打って出勤して、「パフォーマンスは100点満点の20点」という状況は、わが身を振り返ってみても、珍しいことではなさそうです。これは本人だけでなく、周りにも好ましくない影響を及ぼすでしょうし、企業活動として製品やサービスの質の低下や労働災害の危険を高めることにも繋がります。

\*\*\*\*\*



### 近畿技術部会を応援します！

大阪市立大学大学院  
医学研究科産業医学

佐藤 恭子

大阪市立大学大学院医学研究科産業医学の佐藤恭子と申します。今回、日本産業衛生学会近畿地方会産業衛生部会 会長の河合俊夫先生から原稿依頼を賜りました。私は平成11年4月～平成16年6月まで中央労働災害防止協会の大阪労働衛生総合センターの健康管理室に勤めておりました。在職時は職域の健康診断の実施が主な業務で、特殊健康診断の代謝物などの測定は、河合先生が室長をされていた分析測定室で迅速に測定していただいております。同センター内には臨床検査技師、作業環境測定士などの資格保有者が在籍しており、近畿技術部会で活動されていたこともあり、何回か講習会に参加させていただきました。最近では、平成23年2月に開催された、近畿技術部会・心理技術研究会のコラボレーション企画による講演会「快適職場作りに向けたソフト・ハード面からのアプローチ」の座長にお招きいただきました。住友金属工業 安全健康

働く人々の心身の健康を大切にして、その結果としてパフォーマンスを向上させ、企業経営の基盤にしようとする「ヘルシーカンパニー (健康経営)」の考え方が、国内の企業の間でも (少しずつ) 関心を持たれていると言われます。アブセンティーズムだけでなく、プレゼンティーズムを改善して企業としての力を高めていく試みは、さらに重要さを増していくことでしょう。たとえば運動や食生活改善、リラグゼーション、休養などの健康プログラムを通して取り組みや、健診で指摘された生活習慣病のフォロー (時には医療機関の受診勧奨)、適切な休暇・休業を取得できるような職場の制度や環境作りなど…いろいろなアイデアが期待される場所です。震災、不況・円高という経済環境の中、厳しい課題かもしれませんが、持続的な発展を目指す企業にとっては、前向きに考える価値のあるテーマとなるでしょう。健康・医療に関わる者の一人としては、「ひたすら働け」的な労務管理のためのプレゼンティーズム対策ではなく、「ヘルシーカンパニー」の視点からも、日本の企業とそこで働く人々が共に元気を取り戻していく手掛かりの一つとして、プレゼンティーズムの研究と改善の取り組みが進むことを願うものです。

室、(財)和歌山健康センター 健康事業部 部長 岩根幹能先生からは「高齢労働者の労働衛生管理～エルゴノミクスの改善を中心に～」というタイトルで、高齢労働者対策の3原則①見やすく (大きく明るく) ②疲れにくく (姿勢が大切) ③余分な力を使わず (作業方法、収納と運搬) を教えていただきました。株式会社イーブ 代表取締役会長 西川あゆみ先生からは「職場のコンフリクトマネジメント」というタイトルで、コンフリクト=対立は職場での隠れたコストになり、生産性にマイナスの影響を与えるため、シンプルメディエーション=調停という技法で、第三者的に対立関係への介入方法を教えていただきました。大変有意義な講習会でしたので、これからもこっそり参加させていただきたく存じます。話は変わりますが、われわれの教室では厚生労働科学特別研究事業「印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究」を行っております。作業環境の問題が提起されておりますし、日本では法的規制のない化学物質が多用される時代になってきていることから、近畿技術部会の方々のお力をお借りすることになろうかと存じます。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

# 会員の声

## 「喫煙対策の次は？」

大阪市人事室  
出雲谷 恭子

天職と信じていた前職場が閉鎖となり、専属産業医に転職して早くも6年目となりました。課題は山積していましたが、以前からこだわりのあった禁煙サポートを、どのように展開すればいいのかについては、当初から大きな壁にぶちあたっておりました。当時の職場は分煙とは名ばかりで、ガイドラインを満たさない喫煙室が本庁舎各階に複数存在し、事業所に至っては、執務室内も喫煙可能な所がたくさんあり、嘱託産業医の先生方からお叱りを受けることも多々ありました。

安全衛生委員会や各種研修会を利用して、職場として受動喫煙対策の必要性を根気よく訴え続けておりましたが、ある上司が理解を示してくれたことから、平成21年度から2年がかりで職場の禁煙化が一気に進みました。まずは各職場での禁煙タイムの設定などから始め、「職場における喫煙対策に関する指針」を改正し、最終的に全ての職場で建物内禁煙、勤務時間内禁煙までたどり

着きました。また、喫煙者の半数が禁煙を希望していたことから、職場の禁煙化と並行して、各職場で禁煙教室を開催し、インターネット禁煙マラソンの職域支援を利用したり、嘱託産業医連絡会にて禁煙支援の第一人者であられる高橋裕子先生にご講演いただいたり、イントラネットでの情報発信など、禁煙サポートにも取り組みました。自治体ではトップダウン方式が多いと言われていましたが、FCTCなど世界的な動き、公的機関の禁煙化についての厚生労働省からの通達、タバコ代の値上げなども追い風となり、優秀で熱心な保健師チームや事務職さん達、嘱託産業医の先生方のご協力のお陰で、喫煙率（男性）も18年度42.2%から23年度は35.4%まで減少し、ボトムアップ形式での喫煙対策が現在進行中です。

私自身の日常は、ご多分にもれずメンタルヘルス対策に多くの時間を費やしております。今後はそのメンタルヘルスとの関連が深い、喫煙だけでなくアルコール対策も何とか進められないかと考えております。ただし、こちらは勤務時間外の私生活での問題である為介入が難しく、アルコールにはあまりにも寛容な風土から、さらに長期戦を覚悟しております。どうか諸先輩方、会員の皆さまからのよきアドバイスをいただければ幸いです。

\*\*\*\*\*



## 中小企業の健康管理をはじめ

北大阪地域産業保健センター  
益江 淑子

私が産業保健に従事して13年になります。それ以前は大学病院の救急救命センターや市町村の保健師をしておりましたので、産業保健に関する十分な知識はありませんでした。

企業での勤務を初めてからの数年間は知識を深めるため、産業保健の専門書を読み、研修や講演に足を運び、産業現場で活動することにやりがいを感じていました。当時従事していた職場は、看護職が一人だけの職場でしたので、研修に参加するのが難しく、また仕事に行き詰まっても同僚や先輩からの助言や指示を得られずつらく感じました。そんな悩みも、研修で知り合いになった看護職との交流を通じて、情報交換を行ったり愚痴を言い合ったりすることで解消され、相談する人がいることの大切さを実感しました。

その後、大企業を退職し、現在は中小企業のサポートをする地域産業保健センターで勤務しています。地域産業保健センターの業務は、主に50人未満の産業医の選任義務のない事業所の健康相談や産業保健サービスを提供することですが、社会保険労務士から相談を受ける事も多く、中小企業では産業保健に関する問題そのものへの認識が十分でないと感じています。最近「事件は現場で起こっている！」と織田裕二さんさながら、現場を訪問して、地域産業保健センターの活動内容について理解し、活用してもらえるように心掛けています。メンタルヘルスの問題を抱えている事業所は増加しており、事業主のメンタルヘルスへの関心は非常に高く、訪問の際もこうした問題に関する質問も多くなってきています。中小企業は、業種も様々、作業環境も様々です。短時間でも直接話を伺い、一人で悩みを抱えないよう、情報提供や専門機関につなぐお手伝いを行いたいと考えています。

## 議 事 録

### 2012年度第3回幹事会議事録

日時：2012年11月17日（土）12：10～13：00

場所：和歌山医大保健看護学部・3階大会議室

出席：車谷・清田・圓藤・伊木・大脇・河合・木村・  
鈴木・竹村・埜田・中西・西尾・廣部・森岡・  
宮上・宮下・藤岡（順不同・敬称略）

欠席：伊藤・岡田・久保・小泉・鮫島・夏目・土手・  
山田・廣田（監事）・植本（監事）  
（順不同・敬称略）

#### 議事

- 1) 第53回近畿産業衛生学会（2013年11月2日）の準備状況について、中山健夫次期会長から、順調に開催準備を進めていること、場所は京都大学医学部構内の紫蘭会館で、会館内外の3会場を予定しているとの報告があった。
- 2) 第54回近畿産業衛生学会について、伊木雅之次々期会長から、日時を2014年11月15日(土)に決定したこと等の報告があった。
- 3) 選挙管理委員会の西尾委員長と埜田事務局長から、地方会会長、地方会監事、代議員の選挙結果について得票数が記入された一覧表をもとに報告があり、それらの結果を承認した。なお、新代議員の任期は2012年11月1日から2014年の10月31日まで、地方会長と地方会監事および幹事は2013年3月1日から2015年2月末まで、理事は総会での承認からその2年後（2015年）の総会までであることを確認した。
- 4) 理事候補者選挙は新代議員（地方会監事2名を除く）117名の互選とし、11月末日を投票締め切り、12月1日に開票が予定されている。
- 5) 中西担当幹事から、地方会ニュースは順調に発行されていること、ホームページについては再リニューアルされ、アップデートも頻回にできるようになり、情報伝達手段として活用度が高まってきたとの報告があった。
- 6) 圓藤本部副理事長から、本部理事会からの報告として、新定款が3月1日に施行予定されている等の紹介があった。
- 7) 森岡選考委員長から、廣部学術担当理事、9名の座長の投票の結果、上位2名の富岡公子氏（研究領域）と西井幸位氏（実践領域）の両氏に、「第52回近畿産業衛生学会優秀演題賞」を授与する

との報告があり、了承した。なお、森岡学会長から第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞が竹内靖人氏に贈られることの報告があった。

- 8) 本年度第4回幹事会は、新旧合同幹事会として新年2月中・下旬に開催することが了承された。また、地方会長から新幹事の選出方針について説明があった（1頁の新年のご挨拶参照）。
- 9) 来年度地方会総会は2013年6月上・中旬の土曜日に開催することを了承した。
- 10) 第52回近畿産業衛生学会抄録集の地方会ホームページへの掲載については、各演者からの同意を得てから掲載することとした。

### 2012年度第2回代議員会（新旧合同）議事録

日時：2012年11月17日（土）13：10～13：40

場所：和歌山医大保健看護学部・第2会場

#### 1. 代議員会の成立の確認

11月1日の新代議員数現在数119名のうち、出席30名と委任状62名で、地方会会則第13条（現在数の過半数出席で成立）に従い、成立を確認。

#### 2. 議長の選任

上原新一郎氏を選任

#### 3. 第52回近畿産業衛生学会森岡郁晴会長からのご挨拶があった。

#### 4. 議題

- 1) 地方会長・監事・代議員についての選挙結果報告（→幹事会議事録3）参照）
- 2) 理事選挙スケジュールについて（→幹事会議事録4）参照）
- 3) 第53回近畿産業衛生学会の準備状況について（→幹事会議事録1）参照）
- 4) 第54回近畿産業衛生学会について（→幹事会議事録2）参照）
- 5) 地方会ニュース発行状況とHP更新状況について（→幹事会議事録5）参照）
- 6) 「近畿産業衛生学会優秀演題賞」選考経過報告（→幹事会議事録7）参照）

#### 5. 議長解任



### 会員の異動 (敬称略)

〈新入会員〉

- 甲斐 純子 医)一翠会 一翠会千里中央健診センター
- 藤井 秀明 兵庫県健康財団 保健検診センター
- 林 毅 林歯科
- 木村 久実 木村歯科医院
- 八木 みはる 積水化学工業(株)開発研究所

### 平成25年度近畿地方会総会のお知らせ

日時：平成25年6月15日(土) 13:00～(予定)  
 場所：大阪市立大学医学部

### 第53回近畿産業衛生学会のお知らせ

日程：平成25年11月2日  
 場所：京都大学紫蘭会館

### 長浜キヤノン株式会社産業医募集のお知らせ

募集職種：専属産業医 (嘱託社員)  
 勤務地：長浜キヤノン株式会社 健康支援室  
 〒526-0001 滋賀県長浜市国友町1280  
 勤務時間：年間休日125日(週休2日)年末年始、5月、8月に各1週間程度の連休あり  
 採用時期：応相談(2013年3月までを希望)  
 待遇等：委細面談のうえ  
 長浜キヤノンでは、健康面や作業上の諸問題に対して、総合的に対処いただける専属産業医を募集しています。琵琶湖や長浜城などの史跡・名勝に囲まれた住みやすい環境の中での活躍を期待しています。皆様のご応募をお待ちしております。

#### 【お問い合わせ先】

長浜キヤノン株式会社 安全衛生課 担当 北川  
 TEL：0749-65-2789  
 E-mail：kitagawa.takehiko@canon-nagahama.co.jp

**賢者の食卓ダブルサポート**  
 糖分や脂肪の吸収を抑える特定保健用食品

糖分や脂肪の吸収を抑え、食後の血糖値や中性脂肪の上昇をおだやかにします。

消費者庁許可特定保健用食品



Otsuka **大塚製薬株式会社大阪支店**  
 〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40  
 TEL：06-6441-6532

### 編集後記

広報紙「近畿地方会ニュース」も現メンバーでの発行は、平成22年5月以降計8回、いよいよ今年度最終発行となりました。この間会員の皆様には原稿依頼等で、大変ご協力をいただき厚く感謝申し上げます。先の近畿地方会役員選挙により、新たな代議員、理事候補が選出されました。広報紙についても、人が替わればまた新たな取り組みなど期待されます。会員一丸となって、更に盛り立ていきましょう。(大脇 多美代)

編集委員 (五十音順)  
 大脇多美代 (編集責任)  
 河合 俊夫 木村 隆 鈴木 純子  
 竹村 芳 中西 一郎 (広報事務局)  
 藤岡 滋典 宮下 和久